

大田区自立支援協議会だより

- 第 17 号（平成 30 年 9 月発行）…………… P 67～ P 68
- 第 18 号（平成 31 年 3 月発行）…………… P 69～ P 70

大田区自立支援協議会だより第17号



平成30年9月発行

【編集・発行】大田区自立支援協議会
 【事務局】大田区立障がい者総合センター 電話】03-5728-9133 【FAX】03-5728-9136

「大田区自立支援協議会」は、障がい児・者の地域での自立した生活を支援するため、障がいのある方や障がい福祉に係わる様々な分野の関係者が参加して定期的な協議を行い、地域での課題について情報を共有し、連携を取りながら、具体的な検討を行うことを目的として区が設置しています。

平成30年度の大田区自立支援協議会がスタートしました

11年目を迎えた大田区自立支援協議会～更なる歩みの始まりに寄せて～

大田区自立支援協議会会長
 (西武文理大学サービス経営学部健康福祉マネジメント学科 准教授)

白井 絵里子

平成最後の今年、自立支援協議会(以下、協議会とします。)は11年目を迎えました。これまでの10年の歩みを今年度の活動へつなげていくため、第1回運営会議で今年度の協議会の進め方について話し合いが行われました。その結果、今年度は「きんりのくらしへ〜つながる・わたす・ひろげる〜」というキャッチフレーズのもとで活動を行っていくことが確認されました。色付けをされていない布や糸が持つ本来の色のことを指す「きなり」。“ご本人やご家族も様々な立場で関わる支援者もみんなが元気になるような協議会の活動をしていきたい”という思いをこの言葉に込めました。この思いを形にいくために、①つながる、②わたす、③ひろげることを意識して活動を進めたいと考えています。

①つながる、②わたす、③ひろげることを実現する一つの活動として、協議会委員、専門部会のみ委員の参加を中心とした「第1回全体合同部会」の開催を企画しています。異なる部会の委員同士が顔合わせ、お互いに知り合う機会をつくることで、各委員が所属先での業務や日々の生活の中で「つながる」ことができる糸(人)を増やし、その糸(関係)を太くしていくことができます。ぜひとも考えています。

異なる考え方に触れることにより発想の仕方が変わったり、視野が広がる可能性もあります。各部会活動の中で育まれてきた経験や各委員が持っている支援の秘策を相互に「わたす」ことで、思いがけない波及効果が生まれることを期待しています。全体合同部会への参加には人脈というお土産がついてくるかもしれません。

さらに、このような活動を協議会の場を越えて「ひろげる」ことを目指しています。そのために、「石橋をたないたら、それぞれ的一步で渡る(解決することから始める)」ことも必要だと考えます。少しでも改善できることを各自ができることから始める」ことも必要だと考えます。

以上のような活動を通して、「つながることのできる糸の先を増やし、その糸を太くしていくことがネットワークをつくることである」と各自が実感できるような1年にしていきたいと思っております。11年目を迎えた協議会は、「つながり、わたし、ひろがることのできる場」を用意して皆様の“協議会デビュー”をお待ちしております。



9月4日に「全体合同部会」を開催しました!

9月4日(火)の午前中、さぽーとびびあ、協議会の新しい取り組みになります「全体合同部会」を行いました。はじめに、白井会長から全体合同部会開催までの経緯と今年度の協議会のキャッチフレーズのお話がありました。次に、各専門部会長はじめ運営委員のメンバーがそれぞれの「つながる」「わたす」「ひろげる」について報告。そして、「なんでこのテーマを選んだのか自己紹介」とテーマについて普段感じていることをグループで話し合い、掲示物を作りました。最後は、76人の参加者全員で各グループの掲示物を見て回りながら情報交換をしました。グループでの各専門部会間の交流だけでなく、自然な各刺交換や交流の場が会場のあちらこちらにできていました。今回の企画と内容の振り返りは、専門部会、第2回本会で行う予定です。



グループで



ポスターセッションへ情報交換～

協議会勉強会・公開セミナー決まる!

○防災部会では、10月29日(月)10時から「協議会委員を対象とした」勉強会を行います。昨年度に続き、鍵屋一さん(跡見女子大学教授)をお招きし、ワークショップをとおして、それぞれの参加者の防災への係わりが確かめられるような研修を予定しています。

○地域移行、地域生活支援部会では、12月21日(金)10時からさぽーとびびあ5階で、区民の皆様にも参加していただけるような公開セミナーを行います。講師は、神奈川県藤沢市でURの団地の空き室を利用した小規模多機能型居宅介護事業所を中心に地域を巻き込んだ活動をしている「ぐるんどびー」代表の菅原健介さんです。

平成30年度大田区自立支援協議会 第2回本会開催のお知らせ
 日時:平成30年10月26日(金)13時30分～15時30分
 会場:障がい者総合サポートセンター 5階多目的室

「本会」では「自立支援協議会委員」によって、自立支援協議会としての協議を行います。年3回公開で開催しています。第2回本会では、各部会の上半期の活動報告や地域課題の確認、全体合同部会の振り返りなどを行います。

*どなたでも傍聴可能です。会場の都合で先着20名様までとなります。

編集委員から

<次回の大田区自立支援協議会だより第18号は平成31年1月下旬の発行の予定です。>

今年度の専門部会は・・・

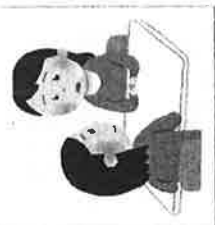
平成30年度も大田区自立支援協議会では、
 ①相談支援部会 ②防災部会 ③就労支援部会 ④こども部会
 ⑤地域移行・地域生活支援部会の5つの専門部会が活動しています。
 今年度の各専門部会の取り組みを各部長からお伝えします。

相談支援部会 部長 神作彩子

この「だより」を手にとられた皆さんは、どんな時に、誰に、「相談」をしますか？
 何か困ったことが起こったときに、悩みがあったときに、なんとなく聞いてもらいたい
 ときに・・・、家族、友人、上司や同僚、専門的な知識をもった人や、電話相談など、見
 ず知らずの人に・・・。「相談」することによって考えがまとまったり、いろいろなる視点
 で見るができるようになってきたり、自分では思いつかなかった解決方法が見つかったり、
 語るだけでもスッキリすることもあります。

「障害福祉サービスにおける相談支援」では、障がいがある方の地域における生活を支
 え続けるために「相談」を受け止め、包括的な支援をすることが求められています。相談
 支援部会では、その包括的な支援において、次の2点を意識して活
 動しています。

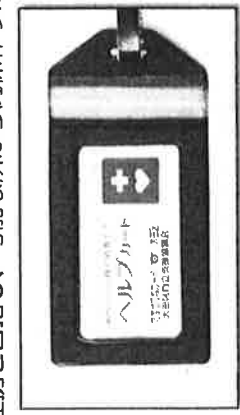
- ①「大田区」という地域にどんな課題があるのか、
個別支援会議をとおして抽出し解決にむけて考える。
- ②大田区の相談支援体制の在り方を考える。
協議会活動をとおして「相談」がより現実で有効なものになりま
すよう、皆で知恵をしぼりだして実際の活動をしていきたいと思
います。



防災部会 部長 志村陽子

防災部会には、今年度も当事者委員と意識の高い支援者委員が積極的に参加、地域生活
 の実感ある課題意識に基づいた取り組みを展開しようとしています。
 ハルブマークを活用したツールづくりとその周知啓発は継続。今年度は、その中でも実
 際に「ハルブカード」を利用した場面での効果や改善点を探するため、そのエピソードを収
 集して取りまとめようと考えています。

地域の皆様との交流が図れる総合防災訓練へは、今年度で7回目の参加。その実施地域
 の状況などを、参加される皆様と情報交換したいと思っています。また、特別出張所との
 連携を目指し、可能な所から関係作りに取り組みようと考えています。



さぼーとびあが積み重ねている「福祉避難所開
 設訓練」への協力から、昨年度は各福祉避難所協
 定施設へのアンケートに取り組みました。今年度
 は他に、関わる事業所等へのアンケートも実施し、
 今後、必要な取り組みを探っていくと考
 えます。

就労支援部会 部長 鶴田雅英

就労支援部会では、「①ひきこもりや若者等グリーゾーンと言われる方たちどうつな
 がるか、②多様な働き方、③法内化された定着支援の開始を迎えて」等について検討を進
 んでいます。多様な働き方のうち、就労継続支援B型事業所（作業所といわれていた障が
 いのある方が働く施設）での働き方から見えてくる課題について紹介します。

2006年に自立支援法（現・総合支援法）が施行され、就労移行支援事業という障がい
 者就労支援の新しい事業形態が生まれました。それまで障がい者と企業を結びつけていた
 のは、大田区においては、B型事業所が中心でしたが、現在では、就職者の多くは、就労
 移行支援事業所から輩出されるようになってきています。そんな中、就労希望者は、就労継続
 支援B型事業所よりも就労移行支援事業所を選ぶ傾向が強くなっ
 ているようです。これは就労系施設の構造的な変化であり、役割の
 変化ともいえます。施設を選ぶ側の変化も起きています。ここで、今年度の課題のひとつとし、施設で働くこと、施設
 の役割について検討をしていきたいと思います。



こども部会 部長 宣崎歩

私は、今年度よりこども部長を務めさせていただきます「くれよんくらぶ」（放課後
 等デイサービス）の宮崎と申します。今回は、この紙面をお借りして、今年度のこども部
 会の活動についてお話をしたいと思います。

まず、第一に、一昨年度より継続して作成して参りました「発達支援マップ」を実際の
 現場で活用し、その検証をしながら制度を利用される方々への一助としたいと思います。

次に「地域課題の検討・課題解決に向けて」という内容で、事例検討を行う予定です。
 また、引き続き「児童発達支援地域ネットワーク会議」との合同研修会の開催も計画して
 おります。その一方で、障がい施策推進プランや子育てかやきプランの確認検討や委員
 の方同士の情報提供と意見交換も実施していく予定です。更に今年度より協議会全体の動
 きとして、他の部会と合同で研修等実施する「合同部会」の開催にも力を注ぐつもりで
 おります。

この地域に暮らすこどもたちとその家族が、安心して暮らせるためのひとつの力となれ
 るよう精進したいと思います。

地域移行・地域生活支援部会 部長 伊藤朋春

今年度の部会は、新たな3年の始まりです。協議会全体でのテ
 ーマ「きなのくらし」をめざして、様々なヒトがつながり、つ
 ながったヒトから小さな知恵を渡したり渡されたりし、それが様
 様なヒトを通じて広がっていく。そんな「つながる」「わたす」「ひろげる」を大切に
 ながら部会活動に取り組み始めています。

委員それぞれが当事者、家族、支援者という立場に捉われず、様々な理由により大田区
 で暮らすことができなかつたり、暮らしぶりを感じている人たちを支えることができる
 「仲間」として係わっていかうと思えます。

部会では、障がい別のワーキンググループを作り、解決策を「だれか」「どのように」
 行うのか、見学や学習会を行いながら、明確にしていきます。そして、自分自身が活用で
 きるような「発信先マップ」等に情報を反映させ、見える化にも取り組みます。



大田区自立支援協議会だより第18号

平成31年3月発行

【編集・発行】大田区自立支援協議会
 【事務局】大田区立障がい者総合サポートセンター [電話] 03-5728-9133 [FAX]03-5728-9136

「大田区自立支援協議会」は、障がい児・者の地域での自立した生活を支援するため、障がいのある方や障がい福祉に係わる様々な分野の関係者が参加して定期的な協議を行い、地域での課題について情報を共有し、連携を取りながら具体的な検討を行うことを目的として区が設置しています。

〈今年度の自立支援協議会活動〉

今年度の活動のキャッチフレーズ「きんりのくらしへつながる・わたす・ひろげる～」は、どのくらい実現したのでしょうか。前号でご報告した「全体合同部会」もそのひとつでした。「全体合同部会」で、多くの専門部会委員が交流をし、つながる実感をもてた協議会は、従来の5部会ごとの取り組みからもっと自由に、地域課題への検討を始めています。

相談支援部会

- 個別支援会議からつながった
 =1回目 地域移行・地域生活支援部会、就労支援部会、当事者、区内関係機関
- =2回目 介護保険サービス事業者、当事者

こども部会

- 「発達支援マップ」の検証でひろがった
 わたした
- 重症心身障がい児の生活を知ることにつながった
- 他部会やネットワーク体とつながった

就労支援部会

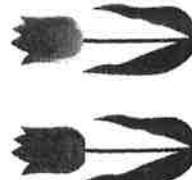
- 福祉的就労のあり方を考えることにつながった=B型事業所、家族
- 若者支援とつながった、ひろがった
 =区内フリースクール
- 公開セミナーでひろがった[2月]
 「福祉的就労とまちづくり・まちおこし」
 竹村 利通氏（公益財団法人日本財団）

地域移行・地域生活支援部会

- 地域移行を検討するための見学会でつながった
 =重症心身障がい児放課後等サービスグループホーム（体験型・企業運営型）
 精神科病院、ピアサポーターも運営するB型事業所
- 公開勉強会でひろがった[12月]
 「地域を巻き込む・地域でつながる」
 菅原 健介氏（働くるんとびー）

防災部会

- 防災訓練参加でつながった・わたした・ひろがった
 =ヘルプマークをPRし地域交流
- 公開勉強会でひろがった[10月]
 「地域での災害に備えてパート2」防災ワークショップ
 鍵屋 一氏（跡見学園女子大学）



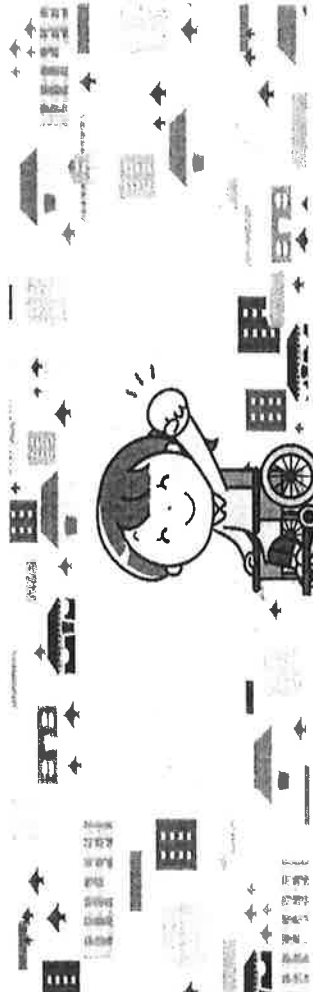
〈第2回本会を終えて〉

大田区自立支援協議会副会長 山根聖子

10月26日に行われました第2回本会は、①運営会議、各専門部会の報告②前半期の地域課題・解決策、全体合同部会の振り返り、次年度協議会の方向性について意見交換をおこないました。特に討議では参加した全委員から活発な発言がありました。大田区総合防災訓練等にブースを設け参加した防災部会委員からは、ヘルプカードを地域の方々に手渡し理解啓発に努めたといった、わたす・ひろがることを連想するエピソードが紹介されました。また、こども部会と就労支援部会の合同部会、相談支援部会と関連する部会による合同部会の検討内容を本会の場でも共有し、教育から福祉へつなぐ「18歳問題」、福祉サービスから介護保険へわたす「65歳問題」に関して意見が多数あがりまりました。所属する部会の枠を越え、家族・学校・事業所等それぞれの日頃の取り組みから幅広い意見を聞くことができました。

全体合同部会については、交流の目的と成果を全員で確認し、今後どのように会議を実施するかということ、あわせて委員の任期に関して討議しました。そのなかには、協議会としての継続性と委員の意識の持ち方を問う貴重な意見もありました。次年度の協議会の方向性については、今後とも会議等で十分に話し合いを重ねていくことが会長の本会総括のなかで述べられました。

このように第2回本会は、今年度の協議会テーマに沿い、大田区の課題を検討すること、意見交換に重きを置いた新しいスタイルとなりました。



平成30年度大田区自立支援協議会 第3回本会開催のお知らせ
日時：平成31年3月15日(金)13時30分～15時45分
会場：障がい者総合サポートセンター 5階多目的室

「本会」では「自立支援協議会委員」によって、自立支援協議会としての協議を行っています。年3回公開で開催しています。
 第3回本会では、各部会のこの1年間の活動報告や来年度の協議会についての検討などを行います。障がいへの配慮が必要な方は3月8日までにさぽーとびーへご連絡ください。

*どなたでも傍聴可能です。会場の都合で先着20名様までとなります。

喜びました！

協議会！

相談支援部会×介護保険

今年度の相談支援部会では、「障害福祉サービスと介護保険サービス」がひとつのテーマでした。両方のサービスを同時に使う場合、あるいは一方から他方へサービスが移る場合、老障介護や何らかの課題を抱えた方が複数いらっしゃる場合…。相談支援における双方の連携は必須であり、待たないです。

部会では、11月7日(水)「障害のある方が65歳を迎えたときに」をテーマとした個別支援会議を行いました。当事者、介護保険サービス関係者等オプザーバーの方々にご参加いただき、部会委員も合わせた総勢40名ほどがグループに分かれて、課題の抽出や解決方法を検討し、次のような意見が出ました。

- 障害福祉制度と介護保険制度の考え方が違うので、支給量が減った場合でも支援者の捉え方が異なる状況があること。
- 障害福祉と介護保険の支援者で横のつながりや支援経験の積み上げが望まれること。
- 介護専門支援員と相談支援専門員が協力して支援方法を考えていく必要があること。

今回は、当事者の意見を聞く貴重な機会になり、様々な立場の人が参加して多様な視点で意見交換ができ、参加者からも有意義だったとの感想が寄せられました。そして、今回の「つながる」きっかけからその後の双方の研修や連絡会等の場面で連携が始っています。

子ども部会×ネットワーク会議

子ども部会は、大田区児童発達支援地域ネットワーク会議と「避難訓練」について12月14日(金)に合同研修を行いました。「どの分野」でつながっていくことがよいのか？を多角的に模索している時、「避難訓練」の方法について、迷っていたらっしゃる事業所が複数あるという課題が見つかったこともあり、今年度は避難訓練を含めた「防災」に焦点を当ててみました。

参加者をグループ分けし、次のような取組について情報交換を行いました。

- 事業所でのような備えをしているか。
 - 事業所での避難訓練の頻度や方法
- 情報交換を通して、今すぐにはできないもののヒントや「防災」をキーワードに地域と繋がれることなどを共有することができました。

災害時、弱い立場になりやすい子どもたちです。緊急時には地域と「つながって」課題を解決しなければなりません。これをきっかけに、また別の切り口からも「つながる」を期待していきたいと思えます。

ひろがった！ つながった！

防災部会×地域防災訓練（町会との連携）

を作り搬送する講習、地域の消防隊による放水訓練、参加者同士で協力し合い、甘口・中辛・辛口の三種類のカレーを調理して食べる炊き出し訓練なども行われました。境内には参拝客用のトイレがあるのですが、車いす対応の多機能トイレも設置されているので、障害のある方も安心して参加をすることができたと感じました。

今年度は、特別出張所にお願ひし、町会単位の防災訓練への参加ができました。そして、田園調布南町会では、このように当事者委員と地域の皆様との交流を進めることができました。また、ざぼーとびあの地元であります入新井特別出張所から部会へのご参加も得て、今後、町会の皆様とつながってほしいと思っております。

防災部会は、11月17日(土)田園調布南町会による防災訓練(鎮町特別出張所管内)に参加しました。会場は、密蔵院(東急多摩川線沼沼部駅より徒歩3分の寺院)の境内と講堂を使用して開催されました。防災部会からは、車いすを利用している委員や聴覚障がい、視覚障がいのある委員も訓練に参加しました。開会式では、防災部長から地域に住む障がい者が被災した場合やヘルプカードへの理解などについてお話しする機会をいただきました。お寺の講堂ではAED訓練や応急救命救急などの講習、境内では大田区の新型起震車に乗車して、震度7の揺れを体験することができました。他にも消火器使用訓練や長い棒2本と毛布で簡易足架



11月17日 田園調布南町会防災訓練(密蔵院)にて

平成 30 年度
大田区自立支援協議会報告書

平成 31 年 3 月発行

大 田 区 自 立 支 援 協 議 会

大田区立障がい者総合サポートセンター

電 話 : 5 7 2 8 - 9 1 3 4

F A X : 5 7 2 8 - 9 1 3 6